

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第1部門第2区分
【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2005-501644(P2005-501644A)
【公表日】平成17年1月20日(2005.1.20)
【年通号数】公開・登録公報2005-003
【出願番号】特願2003-526284(P2003-526284)
【国際特許分類】

A 6 1 B 7/04 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 7/04 J
A 6 1 B 7/04 T

【手続補正書】

【提出日】平成17年8月16日(2005.8.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

装着者の耳に挿入される上端、管に取り付けられる下端、および内径を有して長さ方向に延びる少なくとも1つの音通路を各々に備える少なくとも一対の細長いイヤークューブと、

内部に溝穴を有する中空ステムを備えたアダプタを有する少なくとも1つのチェストピースと、

該少なくとも1つのチェストピースを該少なくとも一対のイヤークューブに音響的に連通させる管と、

を具備する聴診器であって、

前記管が、該管の全長にわたって延びる別個の一対の通路を画定する壁を具備し、該壁が、前記少なくとも1つのチェストピースの前記中空ステムの前記溝穴に接続され、それにより該少なくとも1つのチェストピースと前記少なくとも一対のイヤークューブの前記上端との間に延びる一対の気柱を形成すること、を特徴とする聴診器。

【請求項2】

前記通路の各々が、空気に対して実質的に封止された接合部により、前記少なくとも一対のイヤークューブの前記音通路のうちの1つに接続される、請求項1に記載の聴診器。

【請求項3】

前記一対の通路が、それらの長さの大部分で共通する構造を有して並んでいる、請求項1に記載の聴診器。

【請求項4】

前記一対の通路が、それらの長さに沿って前記チェストピースから前記イヤークューブへ分岐する、請求項1に記載の聴診器。

【請求項5】

前記管が、単一のチェストピースに取り付けられる、請求項1に記載の聴診器。

【請求項6】

前記イヤークューブの前記内径が、その全長にわたって円形断面を有する、請求項1に記載の聴診器。

【請求項 7】

前記イヤークューブの前記上端に取付けられて、該イヤークューブと前記装着者の前記耳との間にクッションを与える可撓性イヤープースをさらに具備する、請求項 1 に記載の聴診器。